

(調査様式1)

1. 自己評価

作成日

令和4年1月17日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4679600082
法人名	医療法人 沖縄徳洲会
事業所名	グループホーム ゆんぬ
所在地	鹿児島県大島郡与論町茶花302-5 (電話) 0997-81-3919
自己評価作成日	令和4年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業主体である医療法人と医療連携体制を整え、利用者、家族等の安心に繋がっている。また、令和2年12月からは利用者の受診時の負担軽減のため院長による往診を開始している。院長の往診の継続により利用者の健康状態の変化時には早く対応できるようになった。また個々の自立支援と地域との交流に力を入れている。本人の能力に応じて、今出来る事がいつまでも出来るように声掛け、励ましながら行っている。今年度はコロナ禍のため家族や地域との交流ができなかったが職員と外出を行い少しでも地域にふれられるように努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	玄関、キッチン、事務所など常に目に付く所に掲示し、毎朝の申し送りでは皆で理念を唱和して意識を高め実践に繋げている。	◎	常に、定員受け入れを行っており理念の実践に取り組んでいる。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今年度ははコロナ禍のため地域との交流がほとんどできなかった。	・コロナ禍で交流行事を行うことはできなかった。	・可能な範囲、努力されている。今後、コロナの状況を見ながら活動を活性化させて欲しい。 ・コロナ状況によるが工夫して推進すべき。 ・
3	3	○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	今年度はコロナ禍のため小中高性や地域の方を招いての地域貢献はできていないが運営推進員や家族には利用者の状態に合わせ認知症の症状等説明し理解に努めている。	/	・可能な範囲で努力されている。今後、コロナの状況を見ながら活性化させて欲しい。 ・推進会議などで行動制限しない認知症対応の報告がなされている。 ・推進会議時に家族や推進員への認知症の理解促進に努めている。
4	4	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回推進会議を行い事業所の活動報告や意見等を聞きサービス向上に繋げている。話し合いの内容は議事録により職員間で共有し日々のケアに役立てている。		・適切な対応である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	5	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村役場職員と包括支援センター職員に運営委員をお願いし、会議に参加してもらっている。新入居者の検討会議にも出席してもらっている。必要時には相談し、指導を受けている。		<ul style="list-style-type: none"> ・特に事業所の実情を理解してもらうことが重要。 ・行政主催の会合へもいつも参加いただき有難うございます。 ・市町村担当者が推進会議のメンバーとなり関わっている。
6	6	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや申し送りなどで確認し合い勉強会などへも積極的に参加し正しい理解に努めている。玄関の鍵錠は帰宅願望の強い利用者がおられ外に出て危険があり時間帯に職員の人数が少ない時間帯は施錠して対応している。		<ul style="list-style-type: none"> ・極力、身体的精神的ストレスを軽減することが望ましい。 ・推進会議で行動制限しない取り組みややむおえず行動制限した状況の報告が行われている。
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士注意し合いミーティング等により言葉や態度など確認し合っている。又勉強会へも積極的に参加している。また、管理者は言葉使い、援助方法等個々の職員の指導にも努めている。		<ul style="list-style-type: none"> ・適切である。
8	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	直接専門家から話を聞く機会や勉強会に参加する機会は少ないが、資料をもとに勉強する様になっている。		<ul style="list-style-type: none"> ・適切である。
9	9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもちろんその都度説明を十分行い、不安や疑問なく理解納得して頂けるよう努めている。		<ul style="list-style-type: none"> ・適切である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	10	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情などは苦情ノートに記載し全員で確認し対応方法を検討している。またグループホームだけで対応できないことは経営主体である病院とも相談して利用者、家族の意見反映に努めている。		<ul style="list-style-type: none"> ・適切である。 ・推進会議が二か月に1回開催され、利用者家族より意見を聞いている。
11	11	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングでは、ケアの仕方などの業務改善に向けた意見や提案の他、現場の困り事など全員で話し合い、サービスの向上に繋げている。		<ul style="list-style-type: none"> ・適切である。 ・定期的にミーティングを行っている。
12	12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人規定により給与改定を行い毎年昇給がある。職員の福利厚生なども充実させ職員の働きやすい環境作りに努めているが職員不足はなかなか解消されない状況である。		<ul style="list-style-type: none"> ・根本的な課題であるが常に考慮する必要がある。 ・連携病院と給与の見直し等に取り組んでいる。
13	13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	パート、正職員を区別せず研修会には全員参加を促し、参加出来ない職員には資料を提供し質の向上に努めている。特定の職員のみ参加にならない様勤務調整を行っている。		<ul style="list-style-type: none"> ・資質向上の機会をもつ。 ・連携病院で行われる研修に職員全員参加されている。キャリアアップ職員への対応も行っている。 ・事故無くよく就業していると思う。
14	14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島内の介護施設との交流はほとんどできていないが病院で開催される勉強会には参加し、参加できない職員にはレポート提出を行い向上に努めている。 4		<ul style="list-style-type: none"> ・適切である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に本人と面談を行い関係機関からの資料などを参考にしながら、不安、要望、困りごとなどを聞きとり安心して利用できるよう説明を行っている。		・適切である。
16	16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に面談を行い不安、要望、困りごとなど聞きとり安心できる様説明を行っている。		・適切である。
17	17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い等を確認し、本当に必要なサービスは何かを話し合いながら対応している。		・適切である。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴を把握し、本人のペース、希望を最優先と考え本人の立場にたち信頼していただける様努力している。また、利用者一人ひとりに担当職員を配置し日ごろから関係をはかっている。		・適切である。
19	18	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を一番に考え、面会時等は本人の生活の様子を知らせ、要望等を職員に伝えやすい雰囲気を作っている。又本人と家族が気兼ねなく話をしたり接する事が出来るよう配慮している。		・適切である。 ・本人の状況、意向に合わせた生活環境の提供に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	20	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度はコロナ禍の影響で面会も家族に限定され関係継続が部分的になった。今後、web面会を利用して島外の家族や島内の家族以外の人とも繋がりが持てるように支援していきたい。		<ul style="list-style-type: none"> ・面会制限も緩和されたので入居者や家族双方のために、感染予防を徹底したうえで面会を再開させて頂きたい。適切である。 ・コロナ禍の中で可能な範囲で家族との絆を考慮した面会の方法等対応している。 ・オンラインの活用と、島外家族との面会方法工夫されていると思います。面会手段の情報発信は今後も必要と思われまます。
21	21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士それぞれの関係や性格など配慮し座席の位置など決めている。又職員が間に入るなどして良好な関係が保てるよう支援に努めている。		<ul style="list-style-type: none"> ・適切である。 ・コロナ禍の中で制限がある中、面会や外出の工夫に取り組んでいる。
22	22	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後長期入院となった場合など病院に行く際見舞いをしている。又必要時に相談し易い様家族に対しても日頃から会った時には挨拶をしたり声を掛けるよう努めている。		<ul style="list-style-type: none"> ・適切である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	23	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り自宅での生活に近づけるよう日々の会話の中から聞きとり把握している。困難な場合は家族から昔の様子などを聞き本人の立場に立って考えている。		・適切である。
24	24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、本人又は家族、関係機関から情報を集め職員間で共有し入居後のケアに活かせるよう努めている。		・適切である。
25	25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活リズム、体調の変化を把握し今出来ることは何かどんな事が難しくなってきたかなど、日々の記録から確認出来るようにしている。		・適切である。 ・医療的側面、暮らしの側面から記録が行われている。
26	26	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝の申し送りや定期的なミーティングにより現状の課題について確認し必要時には家族に連絡をとり相談し今後のケアの方向性を決めている。又新規計画作成後は本人家族と共に計画内容を確認しそれぞれの同意のもと実践に繋げている。		・適切である。
27	27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を記録し朝の申し送りやミーティング等で話し合い、介護計画の見直しを行っている。		・適切である。 ・医療的側面、暮らしの側面から記録が行われている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望時や必要時主治医と相談しながら指圧や、通院、美容、理容、買物、自宅への送迎など柔軟に対応している。		<ul style="list-style-type: none"> ・適切である。 ・コロナ禍の中で制限があるなか、出来る範囲で取り組んで「いる。
29	29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署や病院の協力を得て消防訓練BLS訓練を行っている。又行事の際は地域の方に演芸等への出演等協力して頂いている。		<ul style="list-style-type: none"> ・適切である。 ・消防署、連携病院と連携し消防訓練やBLS講習、感染対策などの研修を受けている。
30	30	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人・家族の希望に合わせている。月1回の受診から往診に変更した際は家族に変更の理由等文書で説明し同意を得ている。		<ul style="list-style-type: none"> ・適切である。 ・連携病院からの往診システムがある。
31	31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護職員がいるため必要時は随時相談を行い、医師につなげたり薬の変更や受診につなげ対応している。		<ul style="list-style-type: none"> ・適切である。 ・看護師職員の介入がある。
32	32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	常に病院関係者と情報を交換し入退院の際スムーズな支援ができています。		<ul style="list-style-type: none"> ・適切である。 ・連携病院と常に連携し情報交換を行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	入所時重度化した場合の対応について事業所で出来る範囲を説明し理解して頂いている。		<ul style="list-style-type: none"> ・適切である。
34	34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	AEDの勉強会や応急処置の訓練を行い急変時に備え常に職員が確認できる場所にマニュアルを備えてある。		<ul style="list-style-type: none"> ・適切である。 ・BLS講習を受けている。
35	35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	消防署立ち会いで、昼夜間想定 of 災害訓練を年2回行っている。又、地震、津波を想定して島の一番高い所に避難するなどの自主訓練も実地している。		<ul style="list-style-type: none"> ・避難路の早期着工 ・火災訓練を行っている。 ・避難用の非常出口確保の課題確認

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	36	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に敬意を持ち、その人の誇りやプライドを大切に接している。		・適切である。 ・利用者の尊厳を守り、丁寧な対応を行っている。
37	37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望を伝え自分で決める事ができるようゆっくり話を聞き話し易い関係作りに努めている。		・適切である。
38	38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個人のペースや思いを最優先とし職員の都合を押しついたり無理強いをしないよう努めている。又希望によって外出等の支援を行っている。		・適切である。
39	39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	希望によってなじみの美容室、理容室に訪問してもらったりしている。行事の際は髪を整え正装しコサージュを付けるなどお洒落を楽しめるよう支援している。		・適切である。
40	40	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜のつくろいやお茶の葉っぱ詰めホットケーキ作りなど食事作りにも参加出来るよう支援している。今年度は感染予防のため皿拭きはできなかったが手袋を着用してテーブルを拭いてもらっている。		・適切である。 ・おやつ作りに利用者も参加している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調の変化に合わせて主治医と相談しながら食事量、形態、飲水量を調整している。毎食、食事量や飲水量を記入している。		・適切である。
42	42	○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、歯磨きなどそれぞれの状態に合わせたケアを実践している。		・適切である。
43	43	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	体調管理表に排泄パターンを記録しその人に合った介助方法で支援している。殆どの方が、日中はトイレにて排泄出来るよう支援している。		・適切である。
44	44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は繊維物の多い野菜を多くとり水分量を把握し体操などで体を動かす機会をつくるなどしてなるべく自然排便が出来るよう努めている。		・適切である。
45	45	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日を決めずに体調希望にそって入浴している。（職員の出勤時間の都合で希望どうりできない時間帯もある）又自分で出来る事は見守り、出来ない事だけ介助している。		・適切である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休憩や睡眠は自由に取れるようにしている。又生活リズムが自然に整うように日中は自ら楽しく参加してもらえようなレクリエーションを工夫したりしている。		・適切である。
47	47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が服薬状況を確認出来るよう個々の記録簿に服薬中の薬情報を綴じている。又服薬の間違いが無いよう毎回2人体制で確認し服薬してもらう。		・適切である。
48	48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴などを参考に役割や楽しみが行えるようにしている。外出の機会を作ったり地域の行事に参加するなど楽しみごとが増えるようにしている。お盆や正月等には島の風習に合った食事の提供により雰囲気味わえる様工夫している。		・適切である。
49	49	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナ禍のため思うように外出ができなかったが施設の周りを散歩したり駐車場でお茶をしたり少しでも外の空気に触れられるようにした。また、外出許可が出たときは職員とドライブに出かけ人気のないところでお茶を楽しんだ。		・外部評価2と同じ ・適切である。 ・コロナ禍の中で制限がある中、可能な状況で取り組んでいる。
50	50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の管理能力に合わせお金を所持し希望時は買い物支援を行っている。今年度はコロナ禍の影響で買い物に行くことはできなかった。		・適切である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望時電話をかけたり、家族からの電話を取り次いだりしている。又島外に住む家族からの手紙の代読や入居者の書いた手紙をポストに入れる等の支援をしている。		・適切である。
52	52	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりや風通しがよく静かで居心地がよいように作られている。又空調管理にも気を付け入居者が快適に過ごせるようにしている。玄関ホールには季節の花を飾り月ごと（季節ごと）の室内装飾を利用者の手作りでやっている。		・適切である。 ・設備が老朽化した箇所や使用状況の変化に合わせた改築等が行われている。季節毎の装飾が行われている。
53	53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士で玄関前のソファでくつろいだり和室でTVを観たり思い思いに過ごせるようにしている。		・適切である。
54	54	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望する物や使い慣れた物は自由に持ち込み居心地良く過ごせる様工夫している。		・適切である。 ・一人一人に合った居室環境が工夫されていると思う。
55	55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全てバリアフリーになっており自由に安全に移動出来るようになってきている。洗面所やトイレ等には分かりやすい様絵や昔から使い慣れた表現を用いるなど自立した生活が出来るようにしている。		・適切である。 ・表示など工夫することに取り組んでいる。

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない